

別記第3号様式

平成16年度事後評価調査書

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	1	研究課題名	ピリカ会関係資料の調査研究					
事業区分	重点領域・一般試験等 一般試験	研究区分	研究	試験	調査	分析	研究期間	11年度～15年度
共同研究機関 (協力機関)						全 所 要 額 (千円)	2,084 (一財 2,084)	
研究の概要								
○ 研究背景 ・ピリカ会とは、幕末から明治・大正にかけて渡島管内森町で医者をつとめた村岡格がアイヌ文化の研究を目的に設立したもので、その資料は主に村岡の旧蔵資料である「村岡文庫」(森町教育委員会所蔵)に含まれているほか、八雲町、松前町等に分散している。渡島地方のアイヌ文化に関する資料が全般的に極めて乏しい中において、ピリカ会関係資料はこの地域の資料として重要である。 ○ 研究目的 ・ピリカ会関係資料の内容を調査・研究することにより、森町を中心とした渡島地方の19世紀～20世紀初頭にかけてのアイヌ文化やアイヌと和人の関わりを明らかにする。 ○ 研究内容 ・村岡文庫及び他の市町村、関係機関が所蔵するピリカ会関係資料(文書資料、民具資料等)を調査・収集し、森町を中心とした渡島地方のアイヌ民族資料の特徴を明らかにするとともに、ピリカ会の活動内容等の分析を通して当時の和人とアイヌの関わり等を明らかにする。 ○ 研究実績 平成11年度 関係機関との打ち合わせ、関係資料の所在調査 平成12年度 森町村岡文庫の調査(文書資料) 平成13年度 森町村岡文庫の調査(文書資料)及び八雲町、帯広市等の関係資料の調査 平成14年度 森町村岡文庫の調査(民具資料)及び松前町、青森市等の関係資料の調査 平成15年度 七飯町、松前町、函館市、東京都等の関係資料の調査及び全体的な補足調査と調査のとりまとめ								
							直近の研究課題評価結果 平成13年度 中間評価 【自己評価】 A・B・C 【総合評価】 A・B・C	
研究の成果								
○ 具体的な成果及び研究目標の達成度 ・森町村岡文庫及び松前町、七飯町等が所蔵するピリカ会関係の文書資料及び民具資料について、文書の読解や民具の計測等の分析調査を行うとともに、資料の写真撮影を行い、これらのデータを収集・整理した。道内外の関係資料(関係者の書簡、活動を報じた新聞記事等)を調査し、ピリカ会の活動内容及び関係者の足跡に関するデータを収集・整理した。以上の調査研究を通じて、ピリカ会の活動の様子や、同会に関わった落部コタンの弁開風治郎の足跡等について明らかにすることができ、特に民具資料については、同会関係資料の全体をはじめて悉皆調査し、その概要や特徴的な様相を確認することができる等、当初の研究目的は達成できた。 ○ 研究期間・経費の妥当性 ・期間・経費ともに妥当であった。 (○ 他機関との連携) ・公式な共同研究体制はとらなかったが、資料調査に当たって森町教育委員会、松前町教育委員会等の協力を得た。 ○ 新たな展開に向けた課題 今回の課題を通じて、これまで資料が乏しいとされてきたこの地域についても関係機関と連携して丹念な調査を行なうことで一定程度の情報の集積が可能であることがわかった。この経験に基づき、今後引き続き、アイヌ民族資料に関する調査研究の蓄積が乏しい地域について、同様の調査をすすめることが必要である。								
							目標の達成度 (a)・b・c	
							期間の妥当性 (a)・b・c	
							経費の妥当性 (a)・b・c	
							成果の有益性 (a)・b・c	
成果の活用策								
○ 活用される分野 ・本研究課題の成果は、道南のアイヌ文化と歴史の学習・研究の基礎的資料として活用できる。特に民具資料の内容分析等の成果は、地域に所在するアイヌ民族資料の価値や意義の確認と理解の促進のための素材として提供し得る。 ○ 具体的な活用方策 ・本研究課題により明らかにし得た地域のアイヌ文化と歴史は、地域のアイヌ文化理解や生涯学習等への活用が可能であり、地域の文化財保存や文化振興のための基礎的データとして活用できる。今後も同様の方法で、市町村の教育委員会等と当センターとの連携・協力による民族資料の所在調査・内容分析等をすすめ、その成果を相互に共有・還元していくことができる。 ○ 成果の普及 ・平成15年度中に森町において同町教委との共催により「アイヌ文化講座」を開催して研究成果の一端を報告し、理解の促進と普及に努めた。最終的な研究成果については資料目録及び主要な資料の内容紹介と資料の整理分析からうかがえる特徴等をまとめた報告書としてとりまとめ(16年度内刊行予定)これを関係市町村及びアイヌ文化伝承活動団体等に配布する予定である。								
							活用の可能性 (a)・b・c	
【自己評価】	【説明】							
(A)・B・C	ピリカ会の活動内容等の分析、整理は、幕末から明治・大正にかけて和人とアイヌの関わりを知る上で貴重であり、アイヌ文化に関して資料が乏しい渡島地方の実態を知る一助となった。また、この調査研究は、当研究センターはもとより、他の研究者や関係機関、学習者にも提供することのできる有意義な研究であった。 (追跡評価の必要性 有(無))							
【総合評価】	【意見】							
(A)・B・C	道南地方のアイヌ文化に関する資料が乏しい中において、ピリカ会関係資料の整理分析から、その特徴をまとめたことは、今後のアイヌ文化と歴史の学習・研究の基礎資料となり、特に民具資料については全体を初めて調査しており十分な成果が得られている。 なお、研究成果については地域での学習会に利用されており、報告書についても関係団体等に配布することとしていることから、追跡評価は実施しない。 (追跡評価の必要性 有(無))							

(A) 目標を達成し、十分な研究成果が得られている
 (B) 目標を概ね達成し、一定の研究成果が得られている
 (C) 目標の達成度が低く、十分な研究成果が得られていない

(a) 極めて高い、適切である
 (b) 高い、概ね適切である
 (c) 低い、改善の余地がある